

# 女性がいきいきと働き

## 活躍する社会の実現に向けて

福岡県知事 小川 洋



経済のグローバル化や少子高齢化に加え、人口減少、地方創生といった新たな  
 山 する、女が い 参り る 性 に関わ 性 と  
 する とが きる 女 社会の実現、すす となっ てい ず  
 県、県 人 人が福岡県に生 生活 へ かったと実感 きる 県 福  
 の福岡県 への実現のため 女性がいきいきと働き活躍 きる  
 と」 なの とで、 な たい たい たい  
 福岡県女性海 事「女性 の」、女性の の に 58  
 に生 じた 海の や の、人 との交流 へ、  
 な いて地 活躍 する 一となる女性の へ に 650  
 人 えて 海 へき した  
 32社 となる 社、19人 が マーク へ 女 が す  
 る 関や へ へ なる女性 す な、現地 活躍  
 する女性と 交 い した  
 へ 加 へ ん、帰 後、県 の 会  
 会 や 会 の経 へ へ へ へ へ  
 、女 社会の と へ 活躍 へ へ へ の ん、  
 へ 得 へ 貴 な経 や知 活か へ 地 や へ 活躍 へ へ のと  
 へ す  
 の へ へ の んが得た へ へ へ へ へ 女  
 社会 する の んに活 いた け へ へ  
 福岡県女性海 事「女性 の の実 に 尽 いた き へ へ へ へ  
 へ 関係の んに心か 感謝申 上 す

# 「女性研修の翼」実施にあたって

福岡県女性海外研修事業

「女性研修の翼」実行委員会

委員長 野原 隆士



福岡県女性海外研修事業「女性研修の翼」は、県内の地域や企業等で活躍されている女性の皆さんを海外に派遣し、外国の各種制度・施設の視察・調査や、人との交流等を通して、国際的視野を持って男女共同参画社会づくりを担うリーダーとなる人材を育成することを目的とし、昭和58年度より実施しています。

32回目となります今年度は、女性が参政権を獲得してから2015年で100周年を迎えるなど政治参画や社会進出が進んだデンマークを訪問国とし、11月8日から14日までの7日間の日程で研修を実施しました。

県内の企業や団体から選ばれた村山団長を初め19名の団員の皆さんは、事前研修で福岡県の男女共同参画の取り組みやワーク・ライフ・バランスの現状などについて学ぶとともに、視察先での質問内容や自主研修先の選定などしっかりと準備され、研修に出発されました。

視察先では、活発に意見交換を行い、女性団体における男女共同参画推進の取り組み、企業における女性登用策や、DVなど困難を抱える女性に対する支援の状況について学び、班ごとにテーマを設定し施設などを訪問するとともに、視察先への移動時間を利用して街頭でのアンケート調査も実施するなど、主体的にデンマークの生活や文化に触れ、多くのことを学ばれました。

帰国後の2月11日の報告会では、団員の手作りの灯りとお菓子で来場者を出迎え、写真や図表を駆使した分かりやすい資料を用いて団員全員で研修成果を発表されました。

団員の皆さんは、報告会に先立ち、何度も打ち合わせやリハーサルを行い、今までにない創意工夫された心温まるものでした。歴代の団長さんをはじめ、大変多くの方に参加いただき、高い評価と今後の活動への期待の言葉をいただきました。

私も報告会に参加しましたが、団員の皆さんの今後の活動への熱意と強い絆に接し、今年度の海外研修が成功裡に終了したことを確信することができました。

団員の皆さんには、デンマークで学んでこられた成果はもちろんのこと、研修で築かれた団員相互の強い絆やネットワークも財産として、これまで「女性研修の翼」に参加された団員の方々と同じく本県の男女共同参画社会づくりに一層御尽力され、地域や職場等でさらに活躍されることを期待します。

最後になりましたが、この事業の実施にあたり、格別の御協力を賜りました市町村をはじめ、関係された皆様に心からお礼を申し上げます。

## 地域や職場で変化をリードする人材に！

第32回福岡県「女性研修の翼」

団長 村山 由香里



第32回福岡県「女性研修の翼」団長として、19名の団員と事務局1名の総勢21名でデンマークを訪問する機会を得ました。首都コペンハーゲンに滞在して女性関連施設や企業などを視察しました。女性参政権が獲得されて100年目の年にデンマークを訪問できたことは、大変有意義で、歴史の厚みに圧倒された7日間でもありました。

デンマーク女性の会の発足は1871年、デンマーク女性評議会は1899年設立、ダナーは1870年代にダナー伯爵夫人が女性や子どものための施設として創設した建物「ダナーハウス」に居を構えています。（「ダナーハウス」は、創設当時は「貧困」、現在は「DV」と課題は変化していますが、女性と子どもを支援する施設としての役割は同じです。）100年を越える時の途中では、変化の波が常に押し寄せ、男女を取り巻く価値観も変化しています。なのに、これだけ長く女性支援の組織や団体がいまに続き、歴史が語られ続けていることに驚きました。

世代をつなぐ巧みさにも学ぶべきことは多いと思いました。女性参政権100周年では、100年前の記念デモ行進と同じ衣裳で若い女性を先頭に行進したり、ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアの利用で若い世代を取り込んだり等、さまざまな取り組みをお聞きしました。

デンマークの女性活躍の大きな節目は、1960年代70年代に経済成長していく中で、女性が労働市場に参加することが求められたことにあります。それまで家庭にいて子どもや親の世話をしていた女性が外で働くために、保育施設や高齢者施設の建設が進み、女性の多くがそれらの施設で仕事に就きました。家庭内の男女平等、同一労働同一賃金の考え方が進み、1976年には平等賃金法が制定されます。同時期、女性の専業主婦率が最高に達し、家庭ぐるみで夫の仕事を支える仕組みを国や企業が作っていった日本との差を感じ入りました。

制度ができ法律が制定されたからといってすぐさま変化するものではありません。「時間がかかる」という言葉を何人もの方からお聞きしました。価値観が変化し、社会が変化してきた時の流れを感じるとともに、日本のこれからは希望を感じることができました。

団員は、研修先では積極的に質問したり話しかけ、街中での突撃インタビューもして交流を深めました。事前研修、事後研修にも真剣に取り組みました。これから研修の成果をそれぞれの地域や職場で活かしていくことと思います。

最後に、このような機会を与えてくださった実行委員会をはじめ多くの皆様に心より感謝申し上げます。また、当初研修プログラムにはありませんでしたが、在デンマーク日本大使館を訪問し、末井誠史特命全権大使にレクチャーを受けることができました。関係者の皆様に御礼申し上げます。